

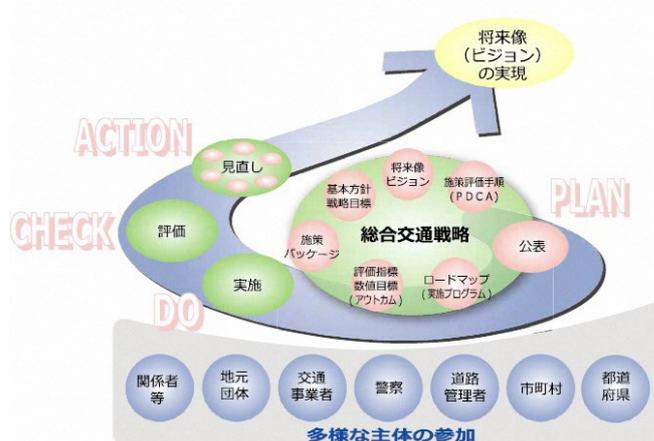
目指すまちと交通

I 総合交通計画の目指すもの

1. 総合交通計画とは

近年、人口減少、超高齢社会の到来、地球環境問題の深刻化、経済成長の停滞、厳しい財政的制約など、全国的にもこれまでに経験したことのない社会状況を迎えています。そのような中において、各地域における都市づくりの方向性は、都市機能を集約するとともに、公共交通ネットワークでその集約拠点を有機的に連携させるという「集約型都市構造^{*}」の実現が求められています。

枚方市総合交通計画では、そのような社会状況としっかり向き合いながら、国土交通省が定める都市・地域総合交通戦略要綱（※1）に基づき、魅力ある都市の将来像実現のために必要となる都市交通環境を構築するための総合的、かつ一体的な施策展開の取組を示すものです。



出典：国土交通省 都市局資料

※1 都市・地域総合交通戦略要綱（抜粋）

この要綱は、進展する少子・超高齢社会への対応、交通渋滞の緩和、交通に起因する環境負荷の低減などのため、過度に自家用車利用に依存することなく、徒歩、自転車、公共交通などの各モードが連携し適切な役割分担の下、望ましい都市・地域像の実現を図る観点から、地方公共団体を中心として、関係機関・団体などが相互に協力し、都市・地域が抱える多様な課題に対応すべく、交通事業とまちづくりが連携した総合的かつ戦略的な交通施策の推進を図るものであり、もって魅力と活力があふれる都市・地域の整備を行うことを目的とする。

（国土交通省）

* 以下用語集（P95～99）を参照

2. どうして総合交通計画が必要なのか

(1) 背景と目的

平成9(1997)年、枚方市では自動車交通量の増加に伴う慢性的交通渋滞や通勤通学の著しい混雑など、交通サービスの低下による移動環境への影響が深刻化しており、「枚方市総合交通体系報告書」として、交通問題への取組を検討し、総合的な観点から交通体系の整備の方向性を示しました。

その後 20 年が経過した現在、社会状況の変化だけでなく、J R 東西線の開通、京阪本線枚方市駅、樟葉駅への特急停車、第二京阪道路の開通などにより、枚方市域を取り巻く交通環境も大きく変化しました。

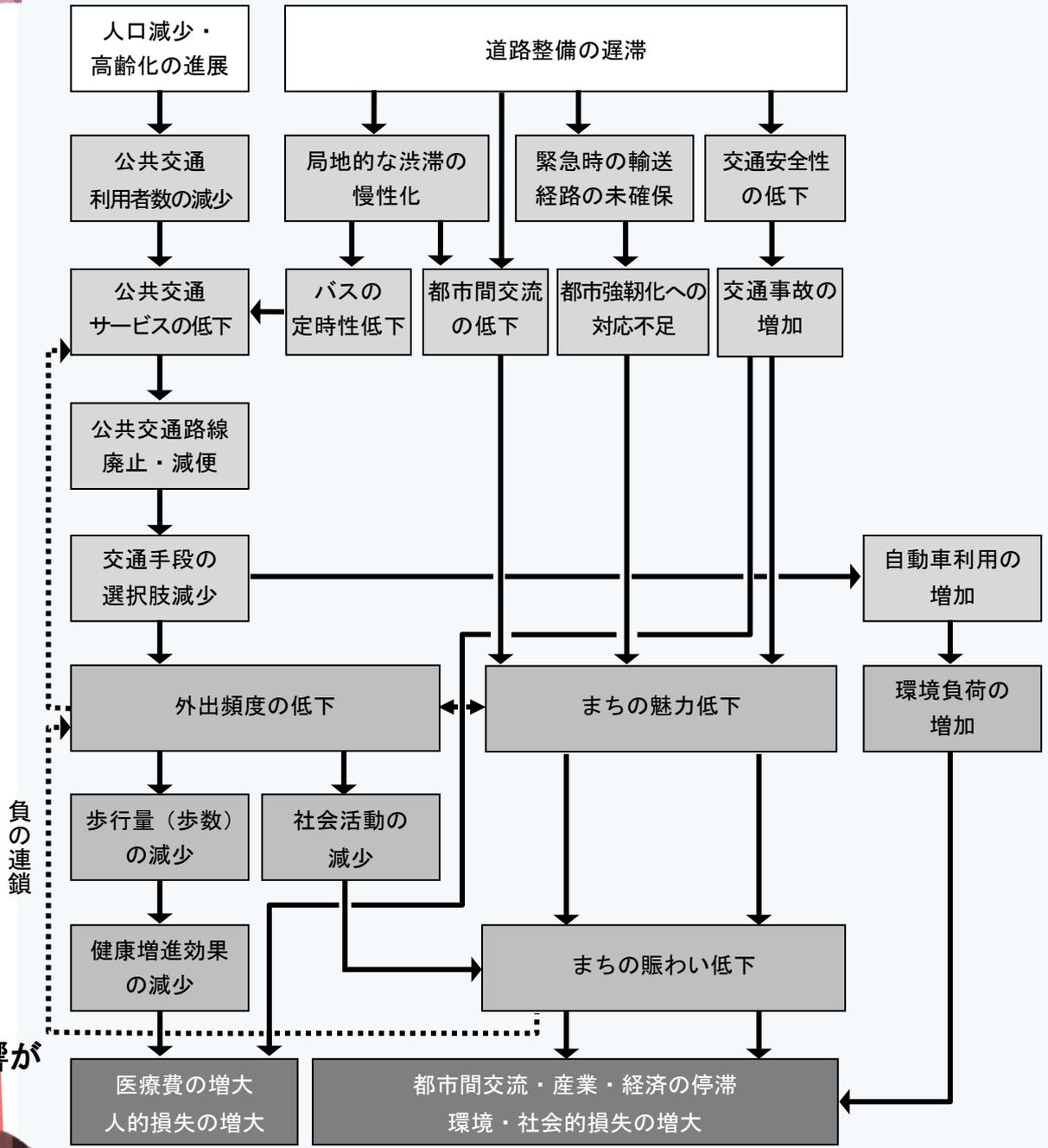
今後はさらに、人口減少や高齢化社会が進むなど、交通環境に与える影響が大きい社会状況の変化が見込まれます。交通に関するサービスなどを維持していくためには、過度に自動車利用に依存することなく、自動車、徒歩、自転車、公共交通などを賢く使うための工夫と、それを支えるインフラの整備が必要になります。また、それらを実現するため、効果的に事業を実施するには、多様な課題に対し総合的な視点や、時期を調整して取り組むなど、市民、企業、行政が連携することが重要となります。

つまり、将来都市像を見据えた新たな交通政策の立案が必要であり、交通事業とまちづくりが連携した総合的かつ戦略的な交通施策の推進を図ることを目的として、「枚方市総合交通計画」を策定します。

● 交通に関わる負の影響



このまま何もしないとどうなるの？



負の影響が
増大



何もしないと暮らしにくいまちになってしまうのね。

(2) 総合交通計画の位置付け

「枚方市総合交通計画」は、枚方市の将来ビジョンを定めた「第5次枚方市総合計画^{*}（平成28(2016)年4月策定）」を上位計画とし、まちづくり施策と一体的かつ効果的に交通施策を推進するため、「枚方市都市計画マスタープラン^{*}（平成29(2017)年3月改定）」及び「枚方市立地適正化計画^{*}（平成29(2017)年3月策定）」と連携し、また、枚方市の関連する分野の行政計画とも整合を図りながら策定します。

第5次枚方市総合計画では「目指すまちの姿」を「持続的に発展し、一人ひとりが輝くまち枚方」としており、交通分野について「安全で利便性の高いまち」を目指し、幹線道路の整備、歩行空間の整備、自転車通行空間の整備、公共交通ネットワークの構築などが示されています。

また、枚方市都市計画マスタープランでは「まち・ひと・自然がつながり、持続的に発展する都市」が将来像として示されています。また、枚方市立地適正化計画では「より便利な都市を実現」、「公共交通ネットワークの充実」が示されており、交通分野においては、歩行者や自転車に配慮した道路整備などの都市基盤の充実や公共交通ネットワークが充実した都市づくりが求められています。

● 上位計画と関連計画

